

第一回 平成30年度・31年度  
地層処分事業に係る社会的側面に関する調査研究支援事業 運営委員会  
議事録

【日時】 平成30年9月26日（水）13:50～16:10

【場所】 三菱総合研究所 4階 会議室 CR-E

【出席者】（順不同、敬称略）

○委員長

原田 久（立教大学 法学部 教授）

○委員

齊藤 誠（一橋大学大学院 経済学研究科 教授）

高橋 信（東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 教授）

朽山 修（公益財団法人原子力安全研究協会 技術顧問）

○オブザーバ

村山 香（経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課係長）

近藤駿介（原子力発電環境整備機構 理事長）

大貫智弘（原子力発電環境整備機構 事業計画部長）

鈴木誠司（原子力発電環境整備機構 事業計画部副部長）

西野 稔（原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ課長代理）

仁戸部真生（原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ）

○運営事務局

【議題】

- （1）本事業の概要について
- （2）本運営委員会の設置及び運営方法について
- （3）社会的側面に関する研究の募集および採択について
- （4）今後のスケジュールについて
- （5）その他

【資料】

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 資料1 地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業 概要
- ・ 資料2-1 平成30年度・31年度地層処分事業に係る社会的側面に関する調査研究支援事業運営委員会 運営規程（案）
- ・ 資料2-2 平成30年度・31年度地層処分事業に係る社会的側面に関する調査研究支援事業運営委員会 運営方針（案）
- ・ 資料3-1 平成30年度・31年度地層処分に係る社会的側面に関する研究 応募要領・応募に関するQ&A（案）
- ・ 資料3-2 平成30年度・31年度地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業 応

募様式・セルフチェックシート（案）

- ・ 資料 3-3 平成 30 年度・31 年度地層処分に係る社会的側面に関する研究 研究計画書  
作成要領（案）
- ・ 資料 3-4 平成 30 年度・31 年度地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業 評  
価方針・基準（案）
- ・ 資料 3-5 平成 30 年度・31 年度地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業 評  
価実施要領（案）
- ・ 資料 3-6 承諾書・研究実施誓約書（案）
- ・ 資料 3-7 成果報告書表紙・成果概要（案）
- ・ 資料 3-8 調査研究実施時のポイント（研究者のみなさまへ）（案）
- ・ 資料 3-9 「地層処分に係る社会的側面に関する研究」の募集について（案）

## 【議事概要】

### 1. 開会

- 運営事務局から開会の挨拶が行われた。
- 勢一委員はご都合により、本日も欠席の旨が運営事務局より報告された。
- 運営事務局より、資料の確認および本日の流れについて説明がされた。

### 2. 挨拶

- 原子力発電環境整備機構の近藤理事長より挨拶があった。

### 3. 委員紹介

- 各委員より自己紹介がされた。

### 4. 委員長の選任

- 委員長については、資料 2-1 に基づき互選とする旨、運営事務局より説明があった。
- 特に推薦の声が挙がらなかったため、運営事務局より原田委員を推薦し、出席委員の了解を得たため、原田委員を委員長に決定した。

### 5. 議事

#### (1) 本事業の概要について

- 運営事務局より、資料 1 に基づき本事業の概要を説明した。
- 一般向けの成果報告会への委員の参加について質問があり、運営事務局からは委員の参加を念頭にしている旨回答がされた。

#### (2) 本運営委員会の設置及び運営方法について

- 運営事務局より、資料 2-1、資料 2-2 に基づき、運営委員会の規程（案）について説明がされた。
- 資料 2-1 の「3. 組織」(4) の「構成員」が何を指しているのかわかりにくいとの意見があり、「研究代表者」等の具体的名称に修正するものとした。
- 委員より本事業、本運営委員会の内容や本事業の研究成果に関する委員本人からの情報発信の希望があった。これに対して、運営事務局より、委員会資料等は公開予定であり、委員による公開資料ベースの情報発信は問題なく、本事業で予定している成果報告会や WEB ページでの周知以外にも、委員による積極的な情報発信が望まれることが説明された。
- 上記の修正を前提に、資料 2-1、資料 2-2 が承認された。
- なお、運営方針の一つ「研究が一過性ではなく、継続・発展することを推し進める」に関連し、研究の継続性・発展性があることが応募者にも伝わるよう、募集等の際に工夫することが望まれるとの意見が委員より挙げられた。

### (3) 社会的側面に関する研究の募集および採択について

- 運営事務局より、募集に関する資料（資料 3-1～資料 3-3）、評価に関する資料（資料 3-4、資料 3-5）、他の関連資料（資料 3-6～資料 3-9）について説明がされた。
- 委員より、「分担研究者」は科研費の表記とあわせた「研究分担者」の方が、応募者にとってわかりやすいだろうとの意見があり、そのように修正するものとした。
- 委員より、資料 3-1「(1) 対象とする研究スコープ（領域）」の例は、研究分野が研究テーマの下位分類かのように見える上、例示であることがわかりにくいことから記載内容を見直すものとした。また、研究分野が例示であることから、一部についてはまとめてしまっても構わない旨の意見があった。具体的な修正方法については委員長預かりとするものとした。
- 委員より、資料 3-1 の 1.2 の「(2) 対象とならない研究」は曖昧さがあるため、応募者に徒に制約をかけてしまうのではないかととの意見があり、本内容は委員会で審議されるものであることから、対象とならない研究がどのようなものかを示す文章を冒頭文に記載し、「(2) 対象とならない研究」は削除するものとした。具体的な冒頭文については、委員長預かりとするものとした。
- 委員より、資料 3-1 の「2.1 応募資格者」が誰をさしているかわかりにくいとの意見があり、「研究代表者」等具体的に示すものとした。
- 委員より、資料 3-1 の「2.1 応募資格者」の内、「(1) 高レベル放射性廃棄物の地層処分事業について一定の知識があること。」は「一定」の基準が曖昧であるとの意見があり、削除するものとした。
- 委員より、資料 3-1 の「2.1 応募資格者」の内、「(3) 当該研究機関の研究活動に実際に従事していること。」は(2)の項目との違いが分かりにくいとの意見があり、(3)は外形的に判断することが難しく、契約締結時の研究期間とのやり取りの中で確認できることから契約締結時に個別に確認するものとし、当該項目から削除するものとした。
- 委員より、研究分野にもよるかもしれないが、研究計画書（案）は分量が多く、応募者にとって負担が大きいのではないかととの意見があり、資料 3-2 について、以下のように修正を行うことで負担軽減を図るものとした。
  - ✓ 主要なマイルストーンは【7-1】「研究計画・方法」に記載可能なため、【7-2】研究の目標及びマイルストーン（進捗管理目標）」を削除する。
  - ✓ 【9】「研究代表者（分担研究者）が本研究に関連して現在までに行った研究状況及び研究業績等」を削除し、応募者が研究実績をアピールする場合は、【6】「本研究に関する国内外の研究状況及び本研究の特色・独創点」や【7-1】「研究計画・方法」に先行研究の論文・成果等を引用して記載してもらうこととする。また、資料 3-2 にその旨の注釈を追記する。
- 委員より、評価する際に小さい文字は読みにくいとの意見があり、研究計画書のフォントサイズを 11pt 以上と指定するものとした。

- 委員より、資料 3-5 に関連し、本事業には多くの研究者に参画いただくことを期待するため、応募件数が多かった場合にはなるべく多くの研究を採択できるよう、申請時金額をそのまま受け入れるのではなく金額調整も見据えるべきとの意見があり、そのように審査するものとした。

#### (4) 今後のスケジュールについて

- 第 2 回運営委員会のスケジュールは「11 月 22 日 15 時～、三菱総合研究所にて開催予定」とした。
- 本日の運営委員会の中で出た修正の内、委員長預かりとなったものについては、早急に委員長案を作成し、委員各位に確認依頼を出す、期日までにご意見ない場合は、委員長に一任したものとした。

#### (5) その他

- 委員から特に他の議題はあがらなかった。

以上